

足立参院議員

# 現地調査を実施 7月豪雨の被災地



落橋した西瀬橋（人吉市）  
を視察する足立議員

足立敏之参院議員は7月11～16日、2020年7月豪雨の被災地の現地調査を行った。大規模な浸水が発生した熊本県の人吉盆地では、球磨川と川辺川の合流点にあり、下流が狭く部という浸水被害の起こりやすい地形条件だったことを確認。足立議員は調査を踏まえ、球磨川の治水対策について「いま一度原点に戻って改めて検討する必要があるのでは」との考えを示した。岐阜県では地元自治体の首長から「防災・減災、国土強靱（きょうじん）化のため緊急3か年対策」の継続実施の要望を受けた。11、12日には熊本県内を視察。人吉市では5以上の浸水が発生した中心市街地を調査した。八代市からは、道路の早期改良復旧、堤防強靱化などの要望を受けた。大規模な土砂崩壊のあった津奈木町からは、早期の激甚災害の指定や仮設住宅の設置などの要望があった。

足立議員は球磨川本川上流の市房ダムだけでは洪水調節効果が限られるとして、地元の意見を聞きながら抜本対策を検討する必要があるとの認識を示した。

15、16日には岐阜県内を視察。高山市、飛騨市、白川村からJR高山線と国道41号の早期復旧、緊急3か年対策の継続実施を求める要望書を受け取った。足立議員はこれを踏まえ、「予防的な対策のための予算が必要」との考えを示した。